【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第３区分
【発行日】平成25年6月6日(2013.6.6)

【公開番号】特開2011-233970(P2011-233970A)
【公開日】平成23年11月17日(2011.11.17)
【年通号数】公開・登録公報2011-046
【出願番号】特願2010-100088(P2010-100088)
【国際特許分類】
Ｈ０４Ｎ　5/225　(2006.01)
Ｇ０３Ｂ　17/02　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｈ０４Ｎ　5/225　Ｄ
Ｇ０３Ｂ　17/02

【手続補正書】
【提出日】平成25年4月22日(2013.4.22)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
少なくとも第１の辺の一方端側に第１の舌片部が延出形成され、前記第１の辺と対向する第２の辺の一方端側からフレキシブル配線板が延出される表示ユニットと、
前記第１の舌片部を挿入可能な第１の開口部が形成されるシャーシ部材と、
前記フレキシブル配線板が接続されるコネクタと、を備え、
前記表示ユニットを前記シャーシ部材に載置し、前記フレキシブル配線板を前記コネクタに接続することで、前記表示ユニットが第１の方向に回転して、前記第１の舌片部が前記第１の開口部に挿入されるように、前記フレキシブル配線板の長さを設定することを特徴とする電子機器。
【請求項２】
前記表示ユニットの前記第２の辺の他方端側に第２の舌片部が延出形成され、
前記シャーシ部材には、前記第２の舌片部を挿入可能な第２の開口部が形成され、
前記表示ユニットを前記シャーシ部材に載置し、前記フレキシブル配線板を前記コネクタに接続することで、前記表示ユニットが第１の方向に回転して、前記第２の舌片部が前記第２の開口部に挿入されるように、前記フレキシブル配線板の長さを設定することを特徴とする請求項１に記載の電子機器。
【請求項３】
前記表示ユニットと前記シャーシ部材との間に配置される弾性部材を備え、
前記弾性部材は導電性を有し、前記弾性部材が前記表示ユニットの前記第１の辺および前記第２の辺の略中央位置で、前記表示ユニットと前記シャーシ部材との間に配置されることを特徴とする請求項１または２に記載の電子機器。
【請求項４】
前記シャーシ部材は、前記表示ユニットの前記第１の辺および前記第２の辺の略中央位置で、前記表示ユニットと接触することを特徴とする請求項１または２に記載の電子機器。
【請求項５】
前記表示ユニットは長方形形状を有し、前記第１の辺および前記第２の辺は前記表示ユ

ニットの長辺であることを特徴とする請求項１ないし４のいずれ１項に記載の電子機器。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００９】
上記目的を達成するために、本発明の電子機器は、少なくとも第１の辺の一方端側に第１の舌片部が延出形成され、前記第１の辺と対向する第２の辺の一方端側からフレキシブル配線板が延出される表示ユニットと、前記第１の舌片部を挿入可能な第１の開口部が形成されるシャーシ部材と、前記フレキシブル配線板が接続されるコネクタと、を備え、前記表示ユニットを前記シャーシ部材に載置し、前記フレキシブル配線板を前記コネクタに接続することで、前記表示ユニットが第１の方向に回転して、前記第１の舌片部が前記第１の開口部に挿入されるように、前記フレキシブル配線板の長さを設定することを特徴とする。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２９】
図６は、図５（ａ）に示す状態から、液晶表示ユニット１８を第１の方向である時計回りに回転させて、液晶表示ユニット１８をシャーシ１０に仮固定した状態を示している。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３１】
図５（ａ）に示す状態から、液晶表示ユニット１８を時計回りに回転させることで、図６（ｂ）に示すように、第１の舌片部１８ｃが第１の開口部１０ｇに挿入されるとともに、図６（ｃ）に示すように、第２の舌片部１８ｄが第２の開口部１０ｈに挿入される。図６の状態では、ポロン２２ａは図６（ｄ）に示すように変形し、ポロン２２ｂは図６（ｅ）に示すように変形する。